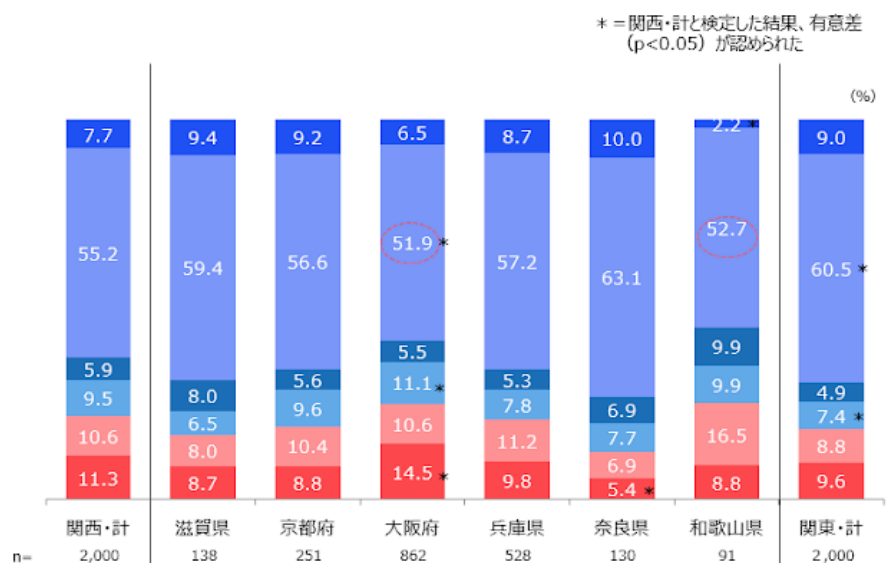


調査機関：株式会社クロス・マーケティング

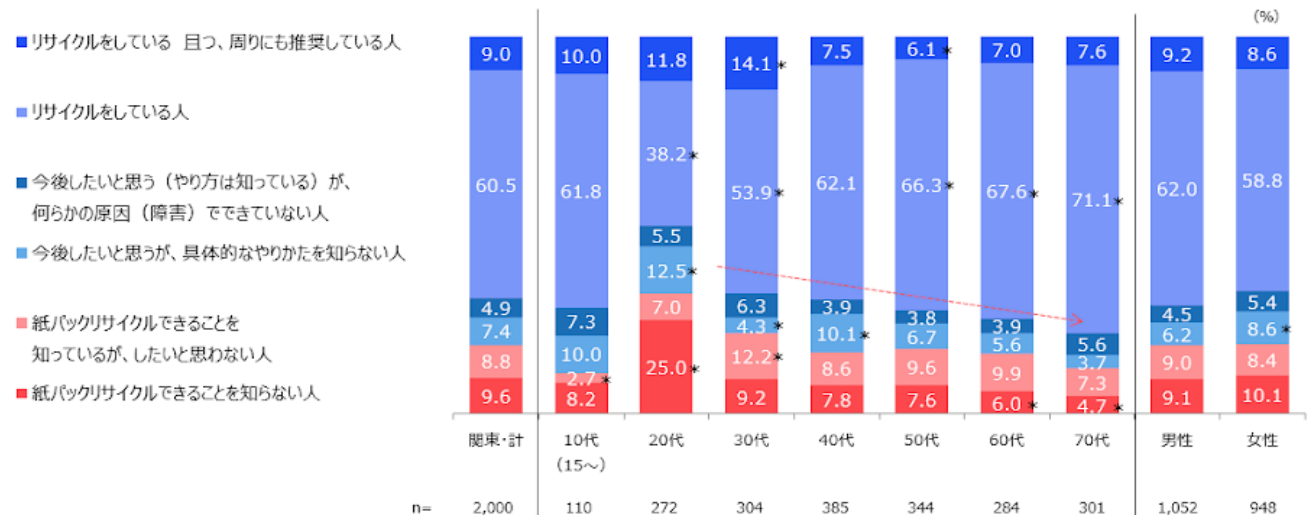


【2】紙パックリサイクルの状況について（年代別）

年代が高くなるにつれ、リサイクルをしている人の比率が高くなる傾向でした。また、20代は「リサイクルできることを知らない」比率が他年代よりも高い一方で、「リサイクルを周りにも推奨している」という意識の高い層も一定数存在する結果となりました。30代は「リサイクルを周りにも推奨している」比率が最も高くなっています。性別によるリサイクル行動に大きな違いはありませんでした。

紙パックリサイクル状況（6セグメント）

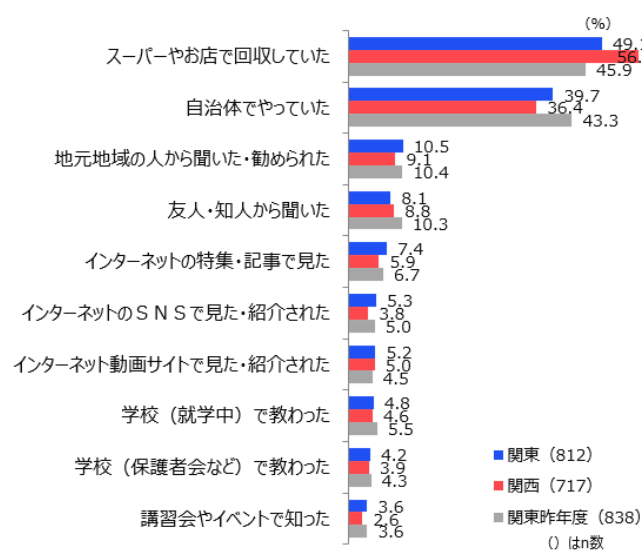
* = 関東・計と検定した結果、有意差（ $p < 0.05$ ）が認められた



【3】「紙パックリサイクルをしている人」のきっかけ・理由

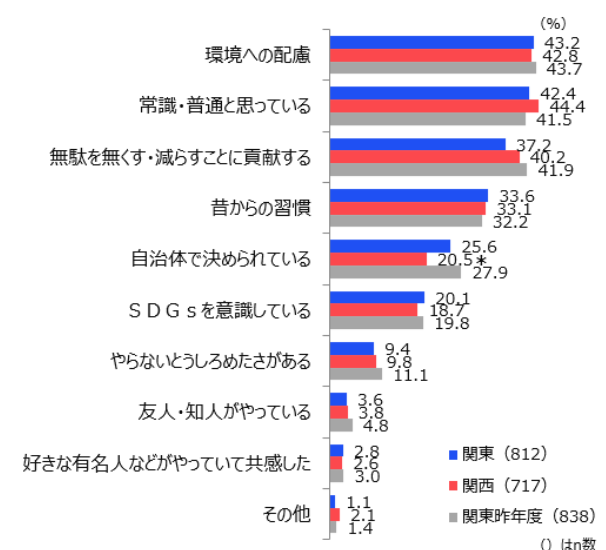
リサイクルのきっかけが「スーパーやお店で回収していた」「自治体でやっていた」の2つであることは昨年度と同様でした。関西も似た傾向となりましたが、「スーパーやお店で回収していた」との回答が多い一方で、「自治体でやっていた」との回答はやや少なくなりました。リサイクルをしている理由としては「環境への配慮」「常識・普通と思っている」「無駄を無くす・減らすことに貢献する」の3つが主な理由でした。また、1年以内にリサイクルを始めた人は、インターネットやSNSがきっかけになっている場合も多い傾向となりました。

リサイクルをするきっかけ



リサイクルをしている理由

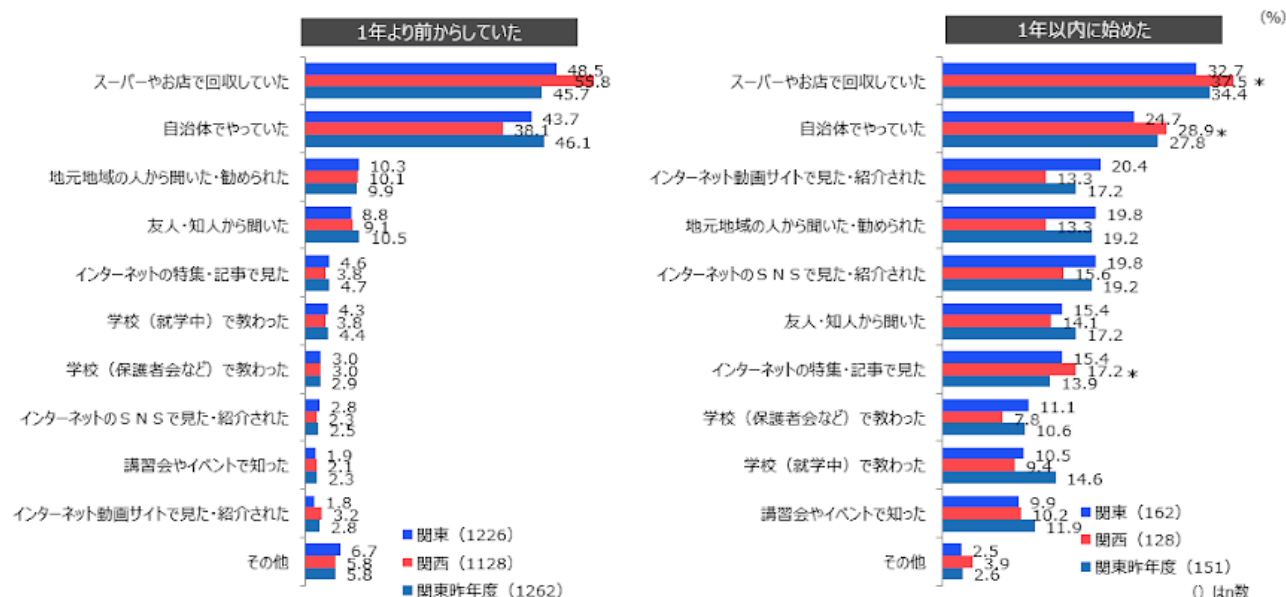
* = 関東と検定した結果、有意差（ $p < 0.05$ ）が認められた



* = 関東と検定した結果、有意差
($p < 0.05$) が認められた

紙パックリサイクルを始めたきっかけ

リサイクルに出している人ベース

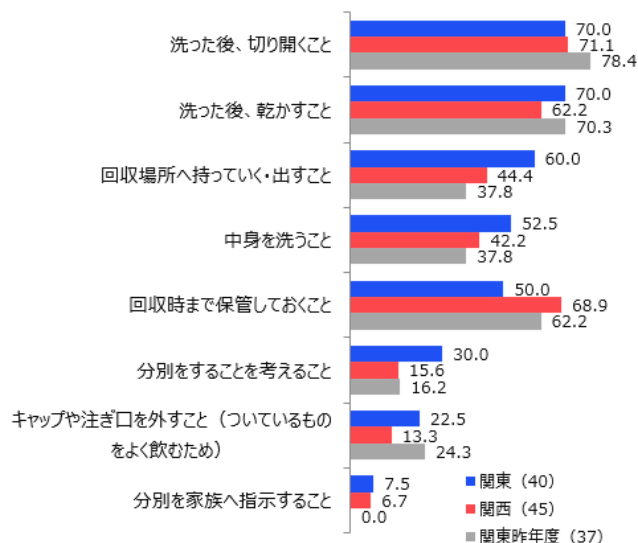
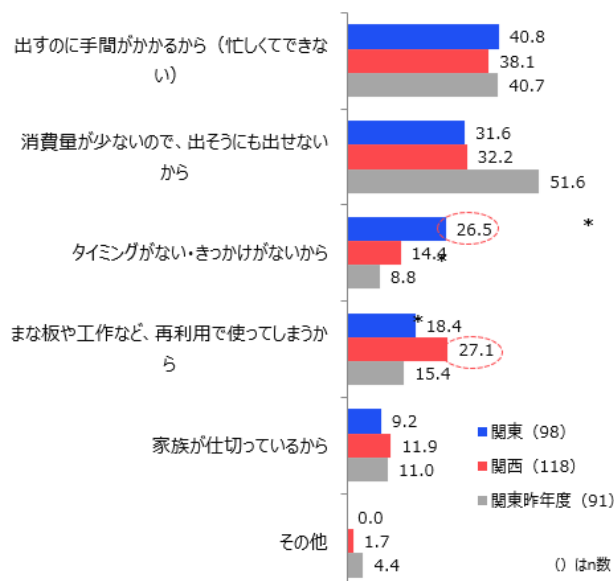


【4】紙パックリサイクルのやり方は知っているがリサイクルに出さない理由

紙パックリサイクルのやり方を知っているにもかかわらずリサイクルに出さない理由としては、関東、関西とも「出すのに手間がかかる」「消費量が少ない」が大きな理由であり、関東では「タイミングがない・きっかけがない」との回答も高くなりました。また、「再利用する」との回答は関西で高くなっています。特に手間がかかると思われているのは、関東、関西ともに「洗った後、切り開くこと」「乾かすこと」などの洗った後の作業であり、関西では「保管しておくこと」も手間と感じている傾向でした。

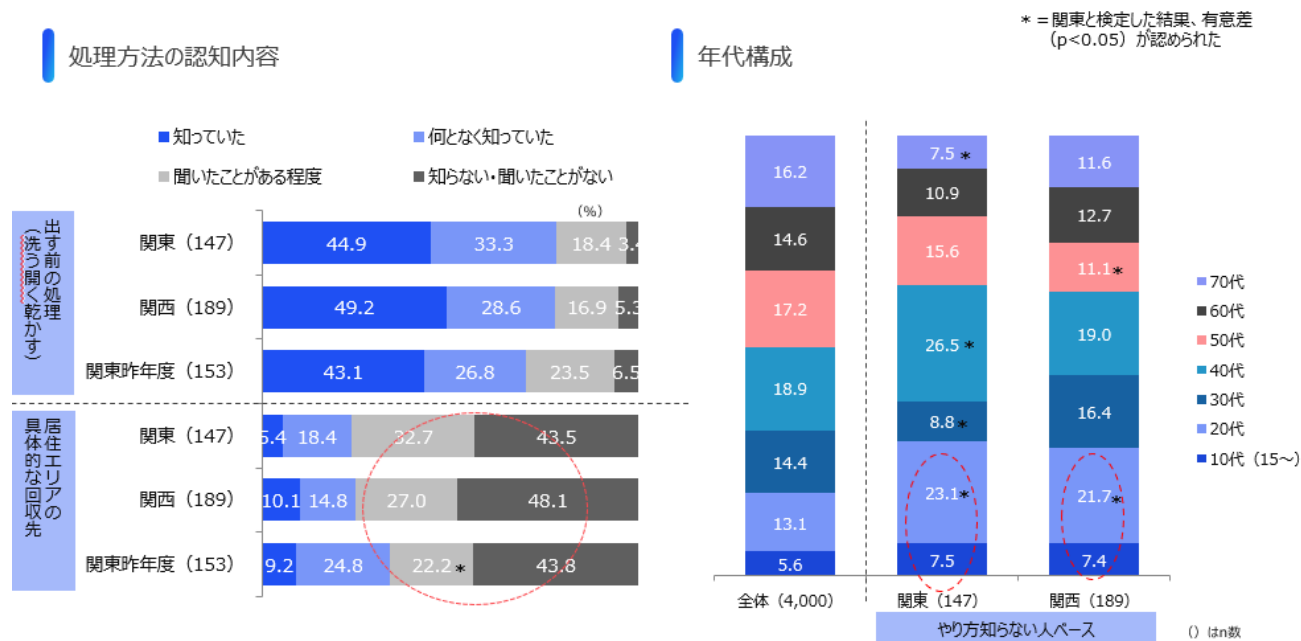
リサイクルに出さない理由

手間がかかるもの(複数回答)



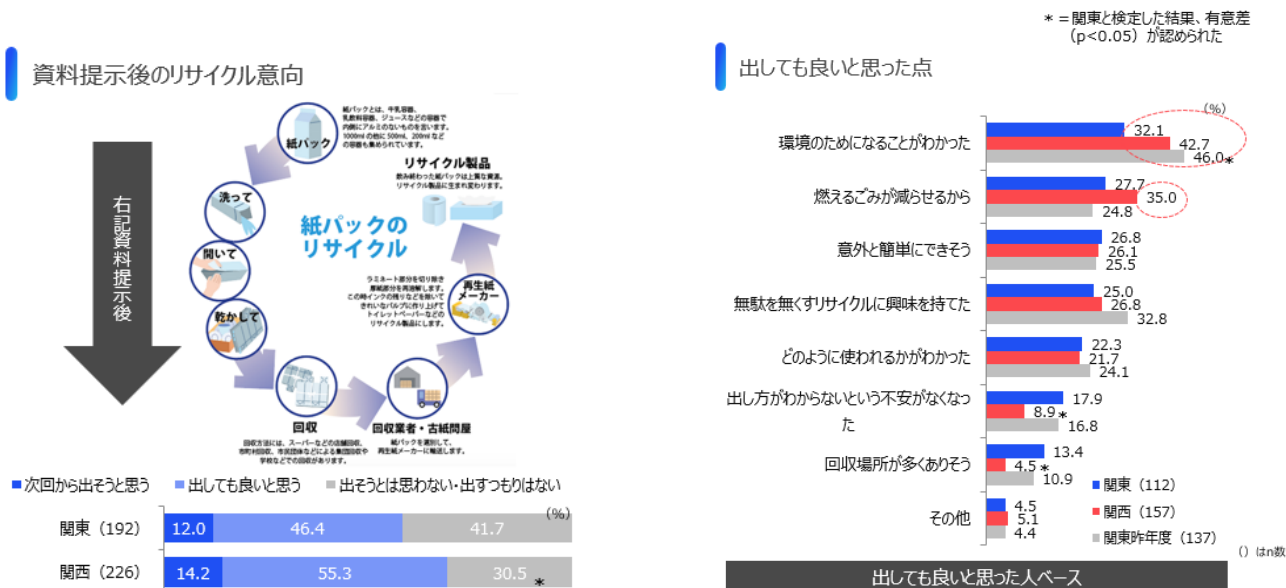
【5】紙パックリサイクルをしたいがやり方を知らない人の認知状況

紙パックリサイクルのやり方を知らない人は、関東、関西とも「紙パックを出す前の処理方法」より「居住エリアの具体的な回収先」を知らない人が多い傾向でした。年代別で見ると、やり方を知らないのは20代以下の若年層が主であり、3割近くを占めています。



【6】「紙パックリサイクルをしていることを知らない人」への訴求点

紙パックリサイクルをしていることを知らない人に、現状の紙パックリサイクルの方法などの資料を提示したところ、関東では12%、関西では約14%が「次回から出そうと思う」と回答し、「出しても良いと思う」と合わせると、関東では約6割、関西では約7割の人が「出そう」「出しても良い」と回答しました。また、出しても良いと思った点としては、関東、関西とも、「環境のためになることがわかった」がトップとなっており、関西では「燃やせるゴミが減らせる」点も大きい傾向でした。



【容環協の所感（調査結果を受けて）】

- 今回の調査を通じて、関東と関西、各都府県での紙パックリサイクル行動の違いや課題、リサイクルのきっかけになり得ることなどが、ある程度明らかになりました。容環協では、地域による違いを意識し、それぞれの地域の特性を考えた啓発活動を心がけたいと思います。
- 紙パックリサイクルのやり方を知らない人は、関東、関西とも「紙パックを出す前の処理方法」より「居住エリアの具体的な回収先」を知らない人が多い傾向がありました。容環協では、行政や

スーパーマーケットなどで回収を行っていること、自治体のHPや小売業のHPにも回収先が掲載されていること、などの情報を提供していきたいと考えています。

- ・ 紙パックリサイクルをしていることを知らない人に紙パックリサイクルの方法などの資料を提示したところ、多くの方から「出そう」「出しても良い」との回答を頂きました。理由は、関東、関西とも「環境のためになることがわかった」がトップであり、関西では「燃やせるゴミが減らせる」との回答も目立ちました。容環協では、出前授業、リサイクル講習会、地域の環境イベントなどを通じて「紙パックのリサイクルは誰でも身近で手軽にできるSDGsへの取り組み」であることをお伝えすると共に、自治体指定のごみ袋への環境広告の掲載についても進めてゆきます。
- ・ 紙パックリサイクルを始めたきっかけは、関東、関西ともに、以前から行っている方は「スーパーやお店で回収していた」「自治体でやっていた」との回答が大半ですが、直近1年以内に始めた方は、「インターネット」「SNS」「動画サイト」などの比率も高くなっています。容環協では、出前授業やリサイクル講習会などの直接的で対面的な啓発活動に加えて、Web記事の掲載や動画の配信などの電子媒体を通じた啓発活動にも積極的に取り組み、HPについても充実させてゆきます。

容環協では、今後もこのような調査を定期的の実施し、客観的、数値的な視点で課題や問題点を抽出し、今後の活動に反映していきます。

以上